



No. 11, May 2003

# 日本高等教育学会ニュースレター

Japanese Association of Higher Education Research

## 目次

- ・ 第6回大会のご案内
  - 第6回大会の開催について
- ・ 課題研究について
- ・ 編集委員会報告
- ・ 理事会報告(第22回)
- ・ 事務局便り
- ・ 日中高等教育フォーラム延期について
- ・ 会費納入のお願い
- ・ 事務局 Q&A
- ・ 会員情報
  - 新入会員
  - 住所・所属変更

## 第6回大会

### 日本高等教育学会第6回大会の開催について

大会準備委員会委員長

川嶋太津夫

既に前号のニュースレターでお知らせしたように、来る5月24日(土)、25日(日)の両日にわたって、本学会の第6回大会を新緑の六甲山に位置する神戸大学で開催いたします。大会準備委員会の不手際で、例年に比べ、短期間での発表申込の受付となりましたが、会員の皆様の活発な研究活動を反映して54件の自由発表の申込がまいりました。加えて、例年通り3つの課題研究と公開シンポジウムを開催いたします。このニュースレターと前後して、皆様のお手元に大会のプログラムが届く予定です。

さて、神戸大学はちょうど1年前の5月に、創立100周年を祝いました。大学の歴史の新たな世紀の始まりにあたり、「自由・真摯・協同」という建学以来の大学のコア・バリューを、本学構成員一同改めて確認したところです。本大会も、会員の皆様の自由な発想に基づく研究をめぐって、真摯で活発な討議が、大会参加者の協同によってなされることを祈念しております。

なお、大会に関する情報は、下記の大会ホームページで随時更新しております。是非ご覧になって下さい。

<http://www.kurihe.kobe-u.ac.jp/gakkai/index.htm>

では、会員の皆様と神戸でまもなくお会いできるのを楽しみにしながら、お待ちしております。

#### 大会日程

5月24日(土)

受付	9:15より
自由研究1	10:00～12:00
自由研究2	13:00～15:00
課題研究	15:10～17:40

1. 「大学財政の構造変化とガバナンス—資金調達を中心に—」
2. 「基礎学力の低下と高大の接続問題」
3. 「授業評価と教授法の相互作用」

懇親会 18:30～20:30  
神戸大学アカデミア館

5月25日(日)

受付	9:15より
自由研究3	10:00～12:00
総会	13:00～13:30
公開シンポジウム	13:40～16:10

「グローバル時代における我が国高等教育の Quality Assurance をどう実現するか」

パネリスト	大森不二雄氏(文部科学省)
	早田幸政氏(大学基準協会事務局)
	館 昭氏(大学評価・学位授与機構)
	喜多村和之氏(早稲田大学教育学部・私学高等教育研究所)
司会	金子元久氏(東京大学)

## 課題研究

### 課題研究について

「改革の時代」であり、「評価の時代」である。しかしながら私には、教育現場が「混沌の時代」とよぶべき状況に陥っているように見える。問題解決の改革が新しい問題を産み落としているからである。この自己言及的連鎖は、教育の世界だけでなく、知識社会の宿命である。知識社会を支える大学は、この連鎖の罠に拘束されつつも、そこから抜け出る戦略を探し出す使命がある。もちろん、その道は平坦ではない。しかしながら、それが研究という営みの新しい知的刺激になっている。知的刺激に満ち溢れた問題を目の当たりにできることは、改革の疲労感以上に魅力的である(と思うことにしよう)。

高等教育学会が抱えている研究課題を挙げるといわれれば、その数は計り知れない。もはややる事がなくなってきている学会も少なくない折から、誠に辛いである。不謹慎な物言いだとお叱りを受けるかもしれないが、そのぐらいの精神的ゆとりをもって真摯に研究の使命を全うすることが大学人の研究戦略だと私は思っている。

企画・研究部(山野井、館、濱名、矢野)において、今回のテーマについて何度か議論して、最終的に次の三つの課題研究を取り上げることにした。

第一は、国立大学法人化にともなって急速に浮上した「ガバナンス」問題である。大学ガバナンスの最もシンプル

な様式は、政府と大学の関係である。資金を提供する主体が意思決定権をもつ。それが経済組織の力学だが、政府と大学の古典的關係は、この経済原理からみて倒錯している。資金を提供する側(政府)ではなく、提供される側(大学)に意思決定権があると理解されてきたからである。この古典的關係が終焉しつつある。しかも、政府と大学だけではなく、家計および企業というステイク・ホルダーの関係も視野に入れなければならない。資金調達に焦点をあてたのは、こうした背景を重視したからである。

第二は、「基礎学力」問題である。90年代後半以降に、基礎学力の低下問題が社会的話題を独占してきた。いうまでもなくこの問題は、大学教育のあり方に強いインパクトを与えている。放置されてきた大学の教育を見直す時期に、学力低下問題が重なったのは深刻である。同時にこの問題は、大学のマス化からユニバーサル化への移行とともに強化されている。ユニバーサル化という構造変動を踏まえて、高校と大学の接続問題を再考する。

第三は、「授業評価」である。学生による授業評価はかなりの浸透を見せてきたし、本学会での研究発表も活発である。しかし、「何のための評価なのか」という疑問も出はじめている。評価のための評価は、一種の病理的現象だといえる。評価を評価だけに閉じ込めないためには、評価を教育の改善に活かす道筋を構成する必要があるのではないかと考えた。「授業評価と教授法の相互作用」というタイトルを設けたのはそのような意図を込めたものである。

それぞれの課題の具体的な企画は、山野井敦徳氏、荒井克弘氏、米谷淳氏の各会員にお願いすることにした。その趣旨と報告者の構成は下記のようにになっている。(矢野真和)

### 課題研究Ⅰ：「大学財政の構造変化とガバナンス—資金調達を中心に—」

(趣旨)

昨年の課題研究「設置形態の再検討」を踏まえ、構造改革の第二弾として、大学ガバナンスと大学財務問題を取り上げる。今回はとくに大学資金の調達という切り口から大学の戦略的ガバナンスの重要性、および資金配分機能としてのファンディング評価のあり方に焦点をあて、アメリカや我が国の資金調達の実情を探り、併せて今後の課題について検討する。(山野井敦徳)

(報告者)

司会：山野井敦徳(広島大学)

- ① 山本 清(国立学校財務センター)：ガバナンスの次元  
ガバナンスの次元を整理し、とくにファンディングや大学戦略としての資金調達のガバナンスの視点とあり方について問題提起する。
- ② 熊 昭(大学評価・学位授与機構)：大学評価と資源配分  
アメリカにおける大学資金調達を事例に、収入と評価の関係进行分析し、我が国の大学評価と資源配分のあり方を提言する。

③ 小林信一(筑波大学)：科学技術政策と研究投資

我が国の研究資金の構造と流れを整理し、これからの大学研究戦略構築による研究費調達的重要性を指摘する。

④ 渡辺 孝(芝浦工業大学・理工学振興会)：コメント

### 課題研究Ⅱ：「基礎学力の低下と高大の接続問題」

(趣旨)

大学進学ユニバーサル化が現実のものとなり、学生たちの多様化も進んでいる。数年前から世間の注目の的となっている学生たちの「基礎学力の低下」はこうした学生たちの多様化に起因する部分が少ないが、その根底により大きな社会的、教育的変化を指摘する声もある。基礎学力低下が何によって生じ、またどのように進んでいるのか、まず現状の確認作業を行いたい。ついで、ユニバーサル化段階の大学入試に求められる条件とは何か、また大学教育にはどのような備えが必要とされるのか、アメリカ等の事例を交えながら、新しい高等教育段階に対応する高大接続について議論を深めたい。(荒井克弘)

(報告者)

司会：荒井克弘(東北大学)

- ① 阿谷剛彦(東京大学)：初中等教育改革が及ぼす影響
- ② 柳井晴夫(大学入試センター)：大学生の学習意欲に関する研究
- ③ 濱名 薫(関西国際大学)：一年次教育とカレッジポートフォリオの可能性
- ④ 尾中文哉(日本女子大学)：低学力層の存在と高大接続改革の二つの方法—アメリカの事例から—

### 課題研究Ⅲ：授業評価と教授法の相互作用

(趣旨)

授業評価は授業研究やそれを踏まえた新しい授業づくりに相互作用しつつ、教授者としての教員の成長と教授団の発達発展を支え導くべきものである。長崎大学、北海道大学、それぞれの現場での取り組みや課題・問題点を報告し、これからの授業評価のあり方について論じる。フロアとの意見交換を重視し、コメンテーターは置かない。(米谷 淳)

(報告者)

司会：濱名陽子(関西国際大学)

- ① 米谷 淳(神戸大学)：授業評価と授業研究  
問題提起を兼ねて、評価の現状、神戸(大学授業研究会)の取り組み、神戸大学の授業評価の実践例を報告する。
- ② 橋本健夫(長崎大学)：教育評価システムと授業改善  
長崎大学の授業評価システムの設計・運用・評価を中心に全学一体の取り組みとそれを支えるシステムについて論じる。
- ③ 小笠原正明(北海道大学)：日本語の技法と授業評価  
北海道大学で進められている初年次少人数教育の中でなされている日本語技法の授業とそれにかかわる評価研究を報告する。

### 編集委員会報告

学会紀要である「高等教育研究」第6巻の編集作業が続いています。神戸の大会までには会員各位にお届けできる予定です。今回の特集は、「高等教育、改革の10年」です。ご期待ください。

なお、今回投稿論文数が例年より少なくて残念に思っております。編集委員会としても対処方法について検討を進めておりますが、何といたっても会員の皆さんからの投稿がなくては話しになりません。若手・中堅・長老クラスを問わず、さらに積極的な投稿をお願いします。また、一度投稿されて意見をつけさせていただいた論文についても、どうぞ再投稿に向けて努力をいただきますよう、期待しております。

(編集委員長 山本真一)

### 理事会報告

#### 第22回理事会報告

2002年10月26日(土)13:30～17:00に開かれ、以下の事項が報告・審議されました。

#### 報告事項

##### 1 第6回大会(神戸大学)の準備状況

第6回大会の準備状況について、川崎大会準備委員長より、別紙のように報告があった。これについて検討した結果、シンポジウムの内容、報告者等について、大会校より理事にメール等で連絡し、さらに意見を聴取することとした。

##### 2 日本学術会議への登録について

金子事務局長より、日本学術会議に申請していた会員退出に係わる学術研究団体としての登録申請について、9月13日付で認められたとの報告があった。

#### 審議事項

##### 1 理事・会長選挙について

金子事務局長より、別紙のような選挙管理規定に基づき、理事選挙を実施したいとの提案があり、これについて審議した結果、選挙管理委員として、大江淳良、阿曾昭明裕、森利枝の3会員に依頼することとした。

##### 2 課題研究について

課題研究について、矢野企画・研究担当理事より、別紙に基づき進行状況の報告があった。また、課題研究1について山野井担当理事から、課題研究2について荒井担当理事よりそれぞれの課題研究について、別紙のように進行状況の報告があった。また、課題研究3について、矢野理事より進行状況の報告があった。これに基づき、審議した結果、それぞれのタイトルや発表順序、報告者等を引き続き担当理事を中心に検討することとして、原案が了承された。

また、会員以外の報告者が増えることの是非について、引き続き検討していくこととした。

##### 3 紀要編集について

山本編集委員長より「高等教育研究」第6巻の刊行について、別紙のように報告があった。これについて、審議した結果、会員以外の原稿依頼について、原則として会員以外には依頼しないこと、依頼する場合も原則として謝金は支払わないこと、ただし、今回は特例として謝金の支出を認めることとした。また、締め切り時期など、投稿論文の実施要領についても引き続き、編集委員会でも検討することとした。

##### 4 「日中高等教育フォーラム」(仮称)について

有本会長より、別紙に基づき、日中高等教育フォーラム(仮称)について、提案がなされた。これについて審議した結果、国際交流・渉外担当理事と協力しながら、実施に向けて具体的に検討していくこと、特に会員への周知を行うこととした。

##### 5 課題研究集会について

金子事務局長より、秋季に予定していた課題研究集会は、随後の事情により当面延期したいとの提案がなされ、了解された。

##### 6 海外からの研究者との交流について

金子事務局長より、来日する海外の研究者との交流事業を行いたいとの提案があり、これについて審議した結果、会員にメールや郵便等で周知することを条件として、講演のペーパーの依頼など具体的に国際交流・渉外部で検討することとした。また、既に来日が決定している研究者については、事務局と国際交流・渉外部で、具体的な対応を行うことが了承された。

##### 7 新規入退会の申請について

金子事務局長より、別紙に基づき、新規入退会者の申請について報告があり、了承された。

### 事務局便り

#### 日中高等教育フォーラム延期

2003年4月24日～26日に上海師範大学で開催される予定の日中高等教育フォーラムは、アジア地域での新型肺炎SARSの流行のため、開催を延期することになりました。日程は、未定です。

#### 会費納入のお願い

ごくわずかですが、会費未納の方がごいます。未納の方は、既にお手元にお送りいたしました郵便振替用紙か郵便局備え付けの普通払込書用紙をご利用になり、書き数込先までお送りくださいますようお願いいたします。

口座番号 01320-9-2987

加入者名 日本高等教育学会事務局

#### 事務局 Q&A

本学会事務局によく寄せられるおたずねについて、お答えいたします。

#### 会費と紀要の関連

本学会の紀要は当該年度末の5月に発行されます。した

がって、新入会員の方には、入会時にすぐに紀要を送付するのではなく、当該年度末まで待っていただくこととなります。たとえば、2002年の8月に入会された方には、最初の紀要は2003年5月に送付されます。

#### 入会時期と大会発表

入会と同時に学会発表をしたいという方が多数おられました。このため、本年度から持ち回り理事会で入会承認をいたすことにしました。ただ、当然のことながら、大会校への申し込み期限を過ぎてからの入会と発表申し込みは受け付けられませんので、ご注意ください。

#### 大会参加について

大会参加に申し込みが必要かとおたずねがあります。本学会では、特に参加申し込み手続きをとっておりません

ので、発表者以外の方は直接ご参加下さい。なお、大会参加費や懇親会費は、振り込みによって前払いできます。

会員以外の方から参加が可能かとおたずねがよくあります。臨時会員として、大会参加は可能ですので、非会員の方で、参加ご希望の方には、積極的に参加をお願いしていただければ幸いです。

#### ホームページについて

日本高等教育学会のホームページが引き続き公開されております。高等教育学会のネット上の窓口として、大会案内、会則等に加え、紀要の日次も掲載しております。入会申込の方法もHPに掲載されています。学会への問い合わせの際にも、ご利用いただけます。アクセスをお待ちしております。

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jahr/>



### 新入会員リスト<<03・02～03・3>>

氏名	〒	住所	TEL	所属
----	---	----	-----	----

### 住所・所属変更リスト

**訃報**

本学会会員の今井啓一会員が、2002年12月28日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

日本高等教育学会ニュースレター No.11

発行日 2003年5月15日

発行所 日本高等教育学会事務局

事務局長 金子元久

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
電話 03-5841-2390 FAX 03-5802-3372

Email: [jaher@he.u-tokyo.ac.jp](mailto:jaher@he.u-tokyo.ac.jp)

URL: <http://www.scc.nii.ac.jp/jaher/>

印刷所 生々文庫サービス

〒151-0054 東京都渋谷区千駄谷3-13-22-400

電話 03-3478-4952, Fax 03-3423-4338

Email: [seisibunken@nifty.com](mailto:seisibunken@nifty.com)